山とスポーツクライミング情報誌

登山月報

2023年1月9日JMSCAの明日を考える会。成田のホテルにて

JMSCA
登山月報　第646号　令和５年１月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

イエロー・バンドへの登攀

新年のご挨拶 …… 2
第２回ユースフュチャーカップ（YFC2022）開催 …… 3
上級夏山リーダープログラムのＵＩＡＡ資格認定結果について …… 5
第７回海外登山懇談会2022 報告 …… 6
ＪＭＳＣＡ自然保護の集い2022 報告 …… 7
2022 ＵＡＡＡ／アジア山岳連盟総会 …… 8
令和３年海外登山奨励金（後期）交付登山隊報告② …… 9
高知県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動 …… 10
JMSCA、表紙のことば、編集後記 …… 11

新春号 No.646

新年のご挨拶

会長　丸　誠一郎

全国の登山愛好者の皆様、クライマーの皆様、SKIMOの皆様、明けましておめでとうございます。

ＪＭＳＣＡを代表致しまして、一言、新年のご挨拶をさせていただきます。

ＪＭＳＣＡは、昨年、お示しの４つの点について、注力してまいりました。

１番目の山への情熱、マウンテンスポーツへの情熱に通じる結果としましては、安全登山指導チームが、上級夏山リーダー指導要綱に対し、日本で初めてＵＩＡＡのスタンダード認定を頂きました。

２番目は、所謂クライミング、SKIMO、登山に絡む、すべてのコンテンツキーをくまなく拾い、普及活動の発射台として、皆さんに発信いたしました。

３番目は、現状認識と分析です。本年夏に発足したプロジェクトチーム中心に47都道府県の各山岳連盟・協会の皆様とコミュニケーションを図りましたが、具体的な行動は2023年に持ち越しとなりました。

一方で、会員登録、選手登録、スタッフ登録制度をデジタル化し、スピード感をもってＪＭＳＣＡと皆様の距離を縮めるプロジェクトが、昨年９月にスタートしました。本年３月以降には具体化いたします。

４番目は、プロセススキルを磨いてまいりました。ＪＭＳＣＡは、コロナ禍で止まっていた自然保護活動をリスタートいたしました。また、クライミング、SKIMOのアスリートの引退後キャリアパスを支援するため、昨年末JMSCA BUSINESS SCHOOLを創設致しました。

JMSCA　2022

Social Skills 情熱と思考	Content Skills 興味と提案
Cognitive Ability 認識と思考	Process Skills 対応と処置

2023年のＪＭＳＣＡは、此方にお示しした４つの新たな課題に、取り組んでまいります。

JMSCA　2023

Stronger Attitude 行動と思考	Education 興味から学習
Cognitive Ability 認識と分析	Introspection is no success 同じ過ちは敵

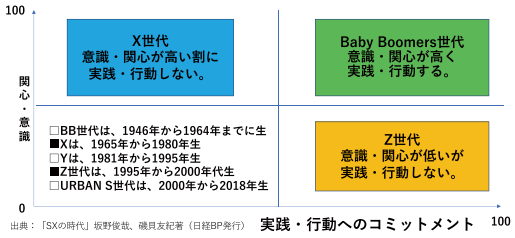
Stronger Attitude。理事会において議論を重ね試行錯誤したものが、役員各人の行動に現れないというお声も多数いただきます。ＪＭＳＣＡは、役員の当事者意識を更に強めてまいります。

EDUCATION。先程お伝えしたJMSCA BUSINESS SCHOOLの開校に際し、７年後のJMSCA2030の姿を、より明確なものにしてまいります。

Cognitive Ability。私を含め全役員は、現状を正しく認識し実行してまいります。

日本国民は、この表でお示しの通り４つの年齢階層毎に行動パターンが大きく異なっております。欧米に比べ、環境、自然保護、社会問題に対する行動意識が極端に低いと言われています。日々、新聞等でGreen Transformation、フリーカーボンと各企業が謳っても、国民の耳にはなかなか響かないとお云われています。

JMSCAサステナビリティの壁



出典：「SXの時代」坂野俊哉、磯貝友紀著（日経BP発行）

本当にそうでしょうか?!

スーパーマーケットで賞味期限の近いものから買おうとするのはＢＢ（ベビーブーマー）世代で約29%、しかし実際に買ったのは12%、現実はＺ世代が実際に同数買っているという結果が出ています。Ｘ世代は、更に行動に出ないという数値が出ています。Ｚ世代、Ｙ世代、Ｘ世代の山岳会離れを嘆いてから長い年月が経っています。しかしＺ世代は、遭難対策、クライミングに関連した健康対策は、考える以上に、行動に起こしているという訳です。

Introspection is no success。次の図は、私が分析致しましたＪＭＳＣＡの現状です。

JMSCA Road to 2030

47都道府県の運営、SKIMO、S-Climbingの選手を支えるのはＪＭＳＣＡの各委員会であり、それを支えるのは、自然山岳保護活動、安全登山指導であり、生きて生還させる遭難救助です。そしてそれらを支えるのは、協賛企業さま各社であり、連携協定を頂いている地方自治体、それを支えるのは、ＪＭＳＣＡ会員全員の、崇高な意識、社会を少しでも良くしていこう情熱、アーバン世代を育てようとする親心、正に意識改革と新たな行動です。

一番基礎になっている下段の２段を親亀とします。親亀がこけてしまうと、上の４個の三角、子亀、孫亀、曾孫亀も、真っ逆さまに落ちてしまうのです。

ＪＭＳＣＡは、このゴールテープを切るために、正確な判断とアクティブな行動を実行してまいります。本年も、皆様の熱いご支援を宜しくお願いいたします。

JMSCA公式Facebookページ

JMSCA公式Instagram（スポーツクライミング）@jmsca_official

JMSCA公式Instagram（山岳）@jmsca_sangaku

第2回ユースフュチャーカップ（YFC2022）開催

YFC2022 実行委員長
村岡正己

第２回ユースフューチャーカップ鉾田を11月26、27日、茨城県の「鉾田市生涯学習館 スポーツクライミングセンター」で開催。

昨年同様、大会PURPOSE（開催意義）を競技経験を積むと共に,アスリートとしての倫理・健康面の知識・理解の向上を図ることとし、大会前に親子オンライン研修（未来のアスリートへ、大会出場にあたっての注意点、医科学、成長期のトレーニング等）を実施。

＊詳細は、「親子オンライン研修会」報告参照

大会初日の11月26日は、ボルダリング競技。コンテスト方式で75分以内に８課題を好きな順番でトライ（１課題のトライは５回）。

まず女子ユースDからスタート。昨年２位の西美柚奈が全課題を完登で優勝。女子ユースCでは狩野凪も全課題を完登で優勝。続いて、男子ユースDでは石田奏、ユースCでは濱田琉誠が優勝。濱田は昨年に続き２連覇を達成。

２日目のリード（２ルートのフラッシング）では、ボルダーで優勝した選手がリードでも優勝する。

受付

ボルダー

■リード ユースC 男子

順位	氏 名	ビブ	Aルート/高度・P		Bルート/高度・P		総合	タイム
1	濱田　琉誠	MC49	TOP	1.5	TOP	3	2.12	4.3
2	奥畑　　成	MC10	TOP	1.5	TOP	3	2.12	5.01
3	上原　一剣	MC53	33+	3	TOP	3	3	－

■リード ユースC 女子

順位	氏 名	ビブ	Aルート/高度・P		Bルート/高度・P		総合	タイム
1	狩野　　凪	WC40	33+	1	TOP	1.5	1.22	－
2	渡邉　奏奈	WC38	30+	5.5	TOP	1.5	2.87	－
3	堀内　優里	WC41	31+	2	39+	4.5	3	－

■リード ユースD 男子

順位	氏 名	ビブ	Aルート/高度・P		Bルート/高度・P		総合	タイム
1	石田　　奏	MD37	29+	1	TOP	1	1	－
2	河本恒太朗	MD05	23	3.5	32+	2.5	2.96	4.18
3	伊藤　柊太	MD45	23	3.5	32+	2.5	2.96	6.44

■リード ユースD 女子

順位	氏 名	ビブ	Aルート/高度・P		Bルート/高度・P		総合	タイム
1	西　美柚奈	WD51	30+	2	39+	1	1.41	－
2	木村　夏渚	WD46	30+	2	37+	3	2.45	－
3	玉城陽南美	WD15	30	4	38+	2	2.83	－

■ボルダー ユースC 男子

順位	氏 名	ビブ	完登ゾーン		アテンプト	
1	濱田　琉誠	MC49	7T	7Z	10	7
2	上原　一剣	MC53	6T	7Z	10	8
3	宮川　幸大	MC26	6T	7Z	11	8

■ボルダー ユースC 女子

順位	氏 名	ビブ	完登ゾーン		アテンプト	
1	狩野　　凪	WC40	8T	8Z	14	12
2	松浦　朱希	WC11	7T	7Z	15	14
3	堀内　優里	WC41	6T	7Z	6	9

■ボルダー ユースD 男子

順位	氏 名	ビブ	完登ゾーン		アテンプト	
1	石田　　奏	MD37	7T	7Z	12	11
2	濱田　琉碧	MD42	7T	7Z	13	11
3	佐藤　飛羽	MD15	6T	6Z	9	7

■ボルダー ユースD 女子

順位	氏 名	ビブ	完登ゾーン		アテンプト	
1	西　美柚奈	WD51	8T	8Z	12	11
2	玉城陽南美	WD15	6T	8Z	9	11
3	蒔田　　遙	WD49	6T	7Z	8	11

全カテゴリーで２冠の王者が誕生。

また、この大会では、TEAM auによる次世代へのアドバイスを行うプロジェクトが行われた。対象者は抽選で各カテゴリー２名。カテゴリーによるが映像によるアドバイスと最後の競技になったユースC男子では、実技でのアドバイスが行われた。

第2回ユースフューチャーカップ鉾田 親子オンライン研修会

ユース日本代表ヘッドコーチ　西谷善子

昨年より始動したユースフューチャーカップでは、参加者の親子全員に対して『親子オンライン研修』の受講を必須条件としており、今年は新たな試みとして選手向けと保護者向けの内容に分けて実施しました。

この先長い競技人生において、「今」ではなく将来の目標やビジョンに向かって、今から「未来」にどう繋げていくか、自分なりに考え続けていくということの大切さを、下記テーマに沿って様々な視点から話をしてもらいました。

【オンライン研修テーマ】

①アスリートから未来のアスリートへ
（藤井快・緒方良行・伊藤ふたば）
②競技ルール＆マナー（佐藤豊）
③ユース世代に起こりやすい障害と応急処置
（樋口拓哉・丹治信志）
④成長期のトレーニング（中貝次郎）

前半の①・②が選手向け、③・④を保護者向けのテーマで講習を行いましたが、現役選手からの話は特に反響が大きく、質疑応答の時間も参加者の皆さんから多くの質問が寄せられました。

事後アンケートでは、「オンライン開催、親子参加とのことでたくさん勉強になりました。」「昨年よりも大変わかりやすく子供にも理解しやすい内容だったと思います。現役選手のお話を聞けたのは、とても有意義でした。」「参加者の親子だけでなく、その指導者や大会同行者にも聞いて欲しい内容だった」といった前向きな意見を頂きました。

一方で、大会の参加条件やオンライン研修の内容（開催日時や用語が難しいetc.）、通信トラブルなど、次年度に向けて改善が必要なところも多々あったため、次年度に向けて各委員会と連携を図りながら改善を図っていければと思っております。

また、昨年と今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響により、対面での研修が難しかったですが、今後の状況を見ながら次年度はオンライン研修と対面研修のハイブリッド形式で行えればと考えております。

マーケティングアンケート

対象：会場来場者（選手帯同者、スタッフ）

	分類		年代	性	コメント
1	スタッフ	地元	50代	女	とても良い大会だと思います。地元の人が見れないのが残念
2	スタッフ	地元	70代	女	去年、今年と受付担当しましたが、今年は色々とやりやすくなっており楽でした。
3	ユースD 男子帯同		40代	男	エントリーについて、先着順の方法を改めて欲しい。開始1分で定員をこえるのは厳しい。
4	スタッフ	JMSCA			アンチドーピングのアウトリーチ活動で来所しました。地元の方が、スタッフされていたり地元で盛り上げている感じが伝わりました。帯同家族が大会の流れや選手の動きについて質問を受けたり、大会スタッフに間違われることもあり。ひと目で大会スタッフと分かるものがあるといいなと思いました。
5	ユースD 男子帯同		40代	男	リードをオンサイトか決勝をやってほしい。ボランティアを他県から呼んで、もっと多くの選手に参加できる様にしてほしい。もちろん手伝います。
6	スタッフ	地元	60代	男	1日目はボルダリング、2日目はリード、参加者が北海道から九州に至る全国大会であり、日頃の練習の積重ねで自分の力の発表会をビックイベントで試せるのは大変幸せなことだと思います。一般の方の見学をあっせんして広く大会を知ってもらったらさらに大会が盛り上がると思います。
7	ユースC 女子帯同		40代	女	成績にかかわらず、経験値をあげるにはよい機会だと思います。リードは他の選手の登りは見てはいけないと書いてあったが、普通に見られている。何か見えないようにする対策はあるのですか。
8	ユースC 男子帯同		40代	女	ボルダーが人数の割に時間が少なく、5回の制限を設けるくらいならもう少し時間を長くしてほしい
9	ユースC 男子帯同		40代	女	とても楽しく見れました。運営の皆様がしっかり対応してくれて助かりました。
10	スタッフ	JMSCA			ハードスケジュールでの運営お疲れ様です。選手のパフォーマンスについてですが、落ち方（リード、ボルダーとも）クリップの仕方等、不安がある選手が多い印象でした。せっかくの機会なので、特に個人参戦している選手にそのあたりアプローチできると良い気がします。
11	スタッフ	JMSCA	50代	男	第1回も参加しましたが、システムが良くなっている
12	ユースC 女子帯同		50代	男	コロナが治まったら決勝もやってほしい
13	ユースC 男子帯同		40代	男	選手の成長につながる大会のため、今後もこのような大会を増やして欲しい。
14	スタッフ	JMSCA		男	ユースC,Dにとって良い大会だと思います。今後も継続してほしい。
15	スタッフ	地元	70代	男	スタッフが良く動いていて試合が滞りなく進んでいること感心します。
16	スタッフ	JMSCA	50代	女	小さい子供さんの頑張りに感動です。自分の担当に関しては、準備からかかわれ勉強させてもらった。各スタッフ皆様お疲れ様です。
17	ユースD 男子帯同		40代	男	ボルダー、リード共に非常に豪華なセットで大変貴重な経験をさせて頂いてます。昨年に比べ、運営がスムースで分かりやすく便利になり、安心してコンペに向かえます
18	ユースD 女子帯同		40代	男	ボルダリングは今回、回転が良く、昨年よりトライができました。リードは全員オンサイトトライができるといいと思います。申し込み方法は検討してほしいです。各山岳会の推薦など。
19	ユースD 男子帯同		40代	女	初参加させて頂き、この一年この日のために練習してきました。コロナ禍で、日程の変更等もありこの日を迎えるまで不安もありましたが、開催できたこと感謝しかありません。親は、見守ることしかできませんが、子供達の頑張りを発揮できる場があることが子供たちの励みにも刺激になると思います。
20	スタッフ	地元	40代	男	特にありません。スタッフの皆様お疲れ様でした。
21	ユースC 女子帯同		40代	男	大会は素晴らしいが、エントリー方法を検討してほしい。
22	ユースC 男子帯同		40代	女	大会意義は非常にいいが、申込1分で終りのが疑問。要改善。

上級夏山リーダープログラムのＵＩＡＡ資格認定結果について

立案から８年を要した「夏山リーダー」教育プログラムの国際第三者機関（国際山岳連盟ＵＩＡＡ）による審査が、2022年11月25～27日に実施され、合格と認定されました。以下、その経緯と審査内容について報告いたします。

1. 上級夏山リーダープログラム開発の経緯

ＪＭＳＣＡでは、我が国の一般登山者のリーダー教育の一元化と、国際山岳連盟ＵＩＡＡのボランティア・リーダー教育プログラムを用いたリーダー教育の質・信頼性の向上をめざし、2015年に「夏山リーダー」教育を発足させました。同年より、ＵＩＡＡの教育プログラムにあるMountain Walking and Trekking（Summer）資格の認定を得るため、準備を開始し、2019年に第１回目のＵＩＡＡ査察の受け入れを目指しました。しかし、当時のレベルでは、諸外国に比べ半分に満たない（講習と検定）の日数、引率リーダー教育のあり方など、様々な問題点をＵＩＡＡより指摘され、受け入れの延期を決定しました。

その後、2020年にかけて、既に指導委員会で実施していた「夏山リーダー」教育を充実させるとともに、当プログラムをリーダーとメンバーが同等の登山知識、技術を持つ取りまとめ型のリーダーとして「ＪＭＳＣＡ公認夏山リーダー（夏山リーダー基礎）」としました。そして、パーティメンバーに登山技術や知識・経験が浅く、危険の予知・回避能力が難しい人々をサポートする引率型リーダーを「ＵＩＡＡ準拠上級夏山リーダー」として、再度、ＵＩＡＡの認定を目指すことにしました。ここで、準拠としたのは、ＵＩＡＡ登山教育プログラムを基に作成しているが、資格認定に合格していないためです。

2. 上級夏山リーダーの準備と特徴

上級夏山リーダープログラムの準備には、UIAA Training CommissionのSteve Long委員長の指導を受けながら、候補者のための（テキストと実技手順、シラバス）、講師のための教本と検定者のための教本、三者のための夏山リーダー規定集を作成しました。さらに、英文による訓練／検定の実施手順をPowerPointで作成しました。

当プログラムの大きな特徴は、リーダーの責任を明確にし、引率パーティの人間関係力学、リーダーとしての判断のあり方、ロールプレイング・シンクアラウド・シミュレーションなどを用いたリスク対応訓練、集団行動下のナビゲーションと下見、総合的判断に基づいたセルフレスキュー、怖がるメンバーへの心的サポートとしてのロープワークなどがあります。また、危機対応のロールプレイでは、怖がる人役に当初、参加者が交互で代行しましたが、あまりにも現実性に乏しいとして、専任の模擬演技者を養成しました。

3. ＵＩＡＡ査察の概要と指摘事項

このような準備を終え、ＵＩＡＡからの査察を要請しますと、まず、調査票が届きました。ＪＭＳＣＡ指導員会活動状況の調査に始まり、上級夏山リーダープログラムに関するガバナンス、夏山リーダー資格の定義、候補者の受講条件、講師・検定者の選定法、訓練・検定コースの選定、座学と実技の割合、候補者と訓練者の割合、候補者が不合格となった場合の救済、など多岐にわたります。

ＵＩＡＡの査察を伴う上級夏山リーダー検定は、Long氏と候補者６人、検定者12人（Long氏への対応者を含む）で実施しました。

初日の集団ナビゲーションから厳しい指摘がありました。引率リーダーであるために、下見に基づいたコース近傍のやぶ山でのナビゲーション能力の検定を設定していましたが、コース外の未知のルートにランダム設定すべきとの指摘に、急遽コースを設定し直しました。Open task, とClose taskという考え方で、後者が決められた範疇での対応能力を検定するのに対し、前者は任意で発生する問題点を自らの力で対応する能力を検定するものです。この考えに基づき、２日目セルフレスキューとリスク対応、３日目技術的に困難な場所の通過もすべて検定コース、課題の実施場所を変えていきました。

もちろん、Long氏による指摘事項は様々な内容に及び、後日５頁の報告書が寄せられましたが、幸い、ＵＩＡＡのTraining Commissionでの審議を経て、資格認定審査の合格が決定いたしました。

今後、指摘事項に配慮しながら上級夏山リーダーの全国展開に向けて、活動していきたいと考えています。この場を借りて、関係した多くの方々に感謝の意を表します。

（ＵＩＡＡ資格委員会）

上級夏山リーダーの検定とＵＩＡＡ　Steve Long氏による承認審査
（前列中央緑色のジャケットがSteve氏）

第７回海外登山懇談会2022 報告

国際アルパインクライミング委員会主催による講演会が11月16日（水）錦糸町駅前にあるすみだ産業会館で開催された。参加者47名、オンライン40。テーマは「ＳＡＷＡ」新たなフィールドに可能性を求めて。

「ヒマラヤの沢の可能性を探る旅」と題して講演予定だった佐藤裕介氏は直前でコロナ感染が判明し自宅からのオンライン参加となった。

冒頭、今春国際の委員長岩崎洋さんとのネパールでの「偵察」の概要を話した。詳細はＪＭＳＣＡ登山月報に最近まで掲載された報告を読んでください。

次に登壇したのは佐藤氏の代打として急遽参加が決まった小峰直城氏。テーマは「ノルウェー大滝遠征」ロムスダール渓谷での大滝登攀の報告。身近な地域ではなく、物価も高く、期間も限られていた中での活動だったようだが「旅するクライミング」としては愉しそうに思えた。

参考になるガイドブックも手に入れられたという。今やネットで登るべき壁を探す時代。可能性は確かに限りがないのだろう。

最後の講演者は成瀬洋一氏。「沢登りの地平線―世界における沢登りの可能性」と題しての報告。国内外の渓谷遡行の多くの報告と国内での災害時のボランティア活動や子供達を連れての様々な地域での自然体験など、そこでの単なる沢登りを超えた大きな枠組みに関して語るつもりだったようだが、ここに来て時間も経過してまるごと伝えるのが難しくなっている様に感じた。３人の講師と司会者との質疑応答とセッションが交わされ終了した。

講師の方々が名前をあげていてこの夏、登山活動中になくなった木下徳彦君について最後に話したい。今から20年以上前慶應大学の学生だった彼はワンダーフォーゲル部に所属しながら私のいた東京都山岳連盟傘下の山岳会に入会し東京大学の大学院から企業に就職するまでの数年間それなりの山行を共にした。やがて彼は私たちの山岳会を離れ自分の志向する道を歩んでいった。６年前私の親がなくなり実家の処分に際して、少なくはない山岳書の処分に困っていたところ彼が引き受けてくれた。受け取りの際一人の女性と車で来訪し「結婚しました。子供も産まれる予定です。」といったやりとりが最後となった。　　（国際ＡＣ委員会　河内圭司）

スクリーン上の佐藤講師

とても１時間では足りませんでした

会場風景 すみだ産業会館

皆あつい！

ＪＭＳＣＡ自然保護の集い2022 報告

これまで各連盟・協会自然保護委員会の持ち回りで開催されてきた「自然保護の集い」は、コロナ禍の収束が見えない中、昨年度に引き続きオンライン会議となりましたが、全国28都府県、56名の連盟・協会の自然保護委員長および自然保護指導員が出席して、11月23日13時より開催されました。

まず、事前に提出頂いた14都道府県自然保護委員会からの活動報告書に基づいて、３月に行った21年度総会以降の各自然保護員会の活動状況を概観しました。コロナの影響は大きく、いずれも活動は停滞気味ではありましたが、市民対象の自然観察会、登山道整備や森林再生など、SDGsな活動を地道に行っている様子が窺えました。

代理を含む出席頂いた自然保護委員長からの自己紹介及び主要な活動の報告を頂いた後、特に活発な活動を続けている３つの委員会からの報告を受けました。神奈川岳連の丹沢二の塔、三の塔での植樹や登山道整備活動は、補助金制度を活用した官民協働型で、水源林での活動に行政機関との連携が必須であることが、また山梨岳連からはコロナ禍中も例年並みに県と山岳会が協力して高山植物の調査や保護活動を続けてきた事例が、新潟山協からは特別保護地区を含むトレランコースを環境省や県とともに主催者と協議を進め、コース変更を実現させた事例が紹介され、活動を継続活発化させる鍵は行政機関や広く市民との連携であることが示されました。

次にオンライン参加されたＪＭＳＣＡ丸誠一郎会長から、気候変動への関心の高まりから世界中の登山界で「自然保護」の存在価値は益々大きくなり、委員会の情報発信力が問われている旨のメッセージが贈られました。

今回のメイン企画は、「自然再生の取り組み」と題した基調講演。神奈川県自然環境保全センターの新谷聡之課長を講師にお招きし、「丹沢大山自然再生基本構想」に基づき丹沢大山を森林のタイプ、地形および標高により「４つの景観域」に分け、それぞれに自然再生の目標を設定、基本構想が掲げる再生目標の実現に向けて、８つの特定課題の解決を目指す事業の実態をお話頂きました。その後、ブレークアウト機能により出席者は５つのグループに分かれて、基調講演に対する感想や意見、各岳連・連盟での自然再生への実践、活動する上での問題点やその解決策などを話し合い、メインルームに戻って各ルームでの討議内容を報告、講師より講評を頂きました。

半日の講演や討議を通じ、日本の山が抱えているオーバーユースや登山道の崩壊、食害などの多くの問題解決には、地方地方の特徴や実情に合わせ、自然保護委員会だけでなく、遭対や指導といった他の委員会、また行政や市民、企業と連携することが如何に重要であるかを再確認しました。そしてそれはまた、各連盟・協会自然保護委員会が活動する上での共通の問題点としてあげる、「老齢化」「人出不足」「資金不足」「スキルがない」「活動に必須の器機が不足」等々への解決のヒントにもなると思われます。

私たちは今回の企画を通じ、「森林再生」が如何に大切であるかを、また一度傷ついた森林の再生には如何に多くの時間や労力を有するかをあらためて知り、しかし地域や山域にあった工夫により乗り越えられた事例も目に致しました。昨年度の自然保護総会のスローガンでもある「山の緑を護り素晴らしい日本の山岳美を未来に残そう」との思いを一層強くし、これからも「SDGsな活動」を継続発展させていきたいと思います。

全国の山屋の皆様にも「森林整備」活動の推進に是非ともご協力を賜りたく、あらためてお願い致します。

なお、総会報告および関連資料は順次ＪＭＳＣＡのWebページにUPしていきますので、ご覧頂きたいと思います。

（自然保護委員長　小髙令子）

丹沢植樹活動①植栽地へ向けて

丹沢植樹活動②

2022UAAA／アジア山岳連盟総会

報告者
小野寺　斉

始めに

ＵＡＡＡ（Union of Asian Alpine Association）は1994年の創立で13ヵ国18団体が加盟している。その他にオブザーバーとしてネパールの２団体が加盟している。ＵＩＡＡ／国際山岳連盟に比較して組織的にはかなり緩い。

コロナ禍により、2020年春の理事会が出来なくなって以来で６ヵ国が参加して開催した。ＶＩＳＡの問題で参加国が減ったとの事。参加の６ヵ国は以下の通りである。韓国（ＫＡＦ，ＣＡＣ）、台湾（ＣＴＭＡ）、ネパール（ＮＭＡ）、日本（ＪＭＳＣＡ）、インド（ＩＭＦ）、イラン（ＩＭＳＣＦ）。

ホスト国はインドでインド登山財団／ＩＭＦ（Indian Mountaineering Foundation）である。インドでの開催は珍しいがこれも後でわかって来る。

開催場所：ニューデリー　ＩＭＦ本部　広い敷地の中の大きな建物に山岳関係の博物館、図書館、講堂、宿泊施設などが入っている。庭にはクライミング施設がある。

開催日程：11月26日（日）

日本からの参加者　小野寺　斉 1名

構内にあるＩＭＦの案内板

表玄関で記念撮影

会議風景①

会議風景②

館内で立ち話

図書室（一部）

順番通りではないが、何点かトピックスを紹介する。

1. 人　事

会長は今まで通り、韓国のIng John Lee氏で継続。副会長は今まではネパール、イラン、中国の３ヵ国で受け持っていたが、今回からインドの会長（Prof Harshwanti Bisht）が推薦された。これは恐らく将来への布石と思われる。インドはコロナ禍になる３年前もそれまで滞納していた10年分の会費＄5,000を支払っている。今は会長、副会長とも女性である。

2. Climate Change（気候変動）

前回のＵＩＡＡ総会（カナダ）の報告でも触れたが、この問題ではＵＡＡＡの代表がＵＩＡＡの気候変動の組織に入り意見交換するとの事。これにもインドの会長が選任された。

3. トラディショナル岩登りフェスチバル

カザフスタンのKazbek氏はＶＩＳＡの関係で出席できなかったが、コロナ禍前も行っており、これからもカザフスタンの岩場で続けたい意向がある。

4. オンラインMuseum

今回のＩＭＦ内部を見て、以前から懸案のポカラ、韓国等の博物館をＷｅｂ上でｌｉｎｋしながらオンラインで繋げたい。無形文化遺産にならないかどうかとも言っていた。

5. エベレストＢＣ問題

ネパールからの提案であるが、決してネパールだけの問題ではない。登山隊を派遣している各国が考えるべき問題であるが、どのようなアプローチを取ったらよいか、ＵＩＡＡも手をこまねいているのが現状である。

6. 2024年（令和6年）のＵＡＡＡ 30周年記念ＧＡ（総会）

ＪＭＳＣＡにおいて開催したいとの提案は承認された。因みに来年秋の総会はネパールとなった。春の理事会開催団体は未定である。

令和３年海外登山奨励金(後期)交付登山隊報告

■Giri Giri Boys K7 Expedition 2022

期　間:2022年７月15日～８月23日
隊　員:横山勝丘(42)、鳴海玄希(38)
山　域:パキスタン・カラコラム　チャラクサ谷
山　名:Ｋ７中央峰(6858m)

【連載２】　横山勝丘

本番に向けてトレーニングを重ねる

ヒマラヤに行くと決めたからには、トレーニング。もちろん普段からトレーニングはしているが、遠征となれば目的を絞った内容でなければならない。とはいえ、その実は結局「山に登る」。もちろん登る対象がＫ７である以上、ロッククライミングのスキル向上は必須だ。だけど丸二年以上もの間、リアルな登山から遠ざかってしまっている私がまずしなければならないことは、登山に必要な体力を再構築し、山の勘を取り戻すこと。2021年秋、アメリカ・ユタ州で積年のクラックプロジェクトを登ったのを契機に、本番までの残り８ヶ月は積極的に登山を行なうことに決めた。

年末、八ヶ岳南麓に住み始めて14年になるにもかかわらず、一度も行ったことのなかった天狗尾根にも単独で行ってみた。ルートそのものは難しくなかったが、一人でラッセルをしながらのバリエーションルートは忘れかけていた山への闘志を思い出させてくれた。あいにく上部で遭難者を発見するハプニングがあり、計画していたルートをたどることはできなかったが、山のリアルな現実を目の当たりにして、自分自身の気持ちに喝が入った。

年が明けてからは、鳴海との山行を増やしていった。お互いの仕事や家庭の都合もあり、なかなか長期の山行はできなかったし、場所も関東や山梨近辺に限られていたが、それでも質の高いトレーニングはできたと思う。具体的には、まずアックスを使ったクライミングの勘を取り戻すために、アイスクライミングに通った。戸台、西上州、私の自宅そばの小さなエリアなど。一ヶ月足らずでアックスの感覚は戻ってきた。

毎年継続して冬壁に通っている鳴海の言葉を借りれば、「冬のクライミングで技術的に難しいことの大概は経験でカバーできる」。そして私自身が感じたのは、「これ以上技術を追及しても、今回のＫ７にはあまり意味がない」ということ。これには鳴海も同意で、もちろん高い技術を持つに越したことはないけれど、限られたトレーニング時間を考えれば、「長時間登り続けられる体力やノウハウを身につける」ことにフォーカスすべきであった。かくして私たちの山行は継続登攀にシフトしていった。とは言

未知なる壁を目指して谷を詰める。この上ない喜びだが、行ってみたら古い残置ピトンがあった。先人はすごい。八ヶ岳にて

え、効率を考えると向かう先は必然的に八ヶ岳となった。

正直、私は八ヶ岳をナメていた。「ガイドの山だろ」と。確かにその一面もある。しかしトレーニングとして考えたとき、これほど効率の良い山は他にないというのも事実だった。なにより、自宅から近い。アプローチも短いので、すぐにクライミングを始められる。混雑する西面を避けて継続登攀することも可能であり、山から下りれば10分後には家でひとっ風呂。

「最高～」

特に、２月下旬に胸までのラッセルを繰り返しながら一泊二日で行った天狗尾根大天狗南リッジ（仮称）～摩利支天沢～阿弥陀北西稜～赤岳西稜～真教寺尾根の継続登攀と、３月中旬の阿弥陀岳南稜獅子ガ岩第１尾根は最高だった。一日15時間以上の行動に加えて、どちらも未知のラインを探る面白さがあった。手垢にまみれたこの場所にあって、まだまだワクワクが存在するという奥の深さに、私の八ヶ岳への評価はさらに高まった。

日々の隙間時間にも、自宅周辺でのトレーニングを継続した。山スキー（あくまでも体力トレ）、トップロープソロでのアイスやミックスクライミング、近所でボルダリングなど、とにかく連日動くことを念頭に置いた。この「連日動く」というのは、ともすればスポーツ理論からかけ離れた考え方のように思われるかもしれないが、「基礎体力の底上げを図る」のが目的だ。もちろんその期間中に高いパフォーマンスは出しづらいし、集中力が必要とされるクライミングは向かない。しかしこれを続けていればいつしか体力は向上するし、その内容がクライミング中心であれば、技術的な向上も図れる。

春が訪れてからは、家の近所の岩場まで走って行って、ひたすら岩を掃除して開拓する日々。2017年のＫ７遠征前でも同じことを実践したが、岩の掃除とクライミング

（割合としては７：３）が、体力とクライミング能力両方の向上に役立つ。また毎朝４時過ぎに起きては、朝食前にランニングやＭＴＢ、岩の掃除、八ヶ岳登山など、テイストを変えながら運動を継続した。

鳴海との山行も続けた。数年ぶりの槍ヶ岳西稜は楽しかったし、最近では恒例となった瑞牆山の継続登攀は計六日間。ただ、５年前と比べると登攀スピードは落ち、一日12時間ほどの行動でも疲労が残った。

「ひょっとして歳というやつか？」

６月中旬からは、例年通り富士山頂での仕事を３週間。何度も富士山を徒歩で往復する中で、意外なことに５年前よりも速い時間で山頂に立つ事もできた。ただし、下山は足首の痛みがあって格段に遅い。

やっぱり歳なんだろう、受け入れるしかないな。

10年以上前の若い頃なら、倍以上のトレーニングが可能だったかもしれない。体も自分を取り巻く環境も、今は100％のコミットメントは厳しいのが事実だ。それでも、限られた時間を有効的に使う集中力と工夫は向上していると自負する、良くやったと言っていいだろう。これならば、結果がどうあれ本番で後悔することもあるまい。

７月13日。私と鳴海の他に、別チームとして佐藤裕介、田中暁、坂本健二の３名が日本を発った。普段から一緒に仕事やクライミングをしている仲間が加わることで、遠征は一段と賑やかになった。そしてなにより、2019年の事故以来となる佐藤の復活が嬉しかった。

いよいよ彼の地に戻る時がきたのだ。

高知県山岳連盟自然保護委員会のＳＤＧｓな活動

高知県山岳連盟は往時に比べ各団体とも高齢化と会員数の減少が進み、若手の少ない小所帯の団体となっています。それ故、役職を兼務する者も多く人手不足の状況です。高知県山岳連盟における自然保護活動も、無理の無い範囲で登山道の整備へ参加したり、細々と山の清掃活動を行ってきたのが実情です。

その様な高知県山岳連盟の自然保護活動ではありますが、国民の祝日として山の日が新たに制定されたことをきっかけに「8.11山の日制定記念事業登山清掃活動」を新たにスタートさせました。８月の山の日に合わせ、高知市近郊の風光明媚な里山として親しまれている鷲尾山の清掃活動を行っています。また、高知県西部の山岳会にもご協力いただき、四万十市や幡多郡の山を中心に清掃活動や登山道整備に取り組んできました。広く参加を呼びかけると幅広い世代の方々が集まってくれます。今では高知県山岳連盟の一大イベントとなり、年を重ねるごとにゴミの回収量も減り、鷲尾山のメインルートではほとんどゴミを見かけない年もありました。

課題としては、別の山域で同事業を展開したいものの、アクセスやトイレ等の問題によりなかなか実施に至らない点があります。公共交通機関が脆弱な高知県にあって、面的な活動の広がりが進まない要因ともなっています。また、イベントとしての清掃活動や登山道の整備は、登山活動の普及イベントとも親和性の高い取り組みです。「少年少女登山教室」などでも自然保護に向けたプログラムを組み込むことや、自然保護活動を通じての登山の普及に取り組む必要があると考えておりますが、なかなか良いアイデアが浮かびません。この登山月報で掲載される各地の報告を、新たな知見を得られる機会にしていきたいと思います。

残念ながら令和３年と４年も実施を計画してはいたものの、新型コロナウィルスの感染拡大のタイミングと重なり中止となりました。しかし、協同作業を通じて自然保護への意識を高め、その行動化を促すこの清掃活動はＳＤＧｓの取り組みそのものであり、今後もこの事業は継続していきたいと考えております。

（高知県山岳連盟理事 自然保護委員長　鎌倉正典）

表：「8.11山の日制定記念事業登山清掃活動」（平成27年～令和２年）

年　度	実施日	会場	参加者数	事業成果
平成27年	8月23日	高知市 鷲尾山	43名	可燃物12.9kg　ビンカン類3.1kg　回収
平成28年	8月21日	高知市 鷲尾山	53名	可燃物4.0kg　ビンカン類2.5kg　回収
		幡多郡黒潮町 八丁山	10名	登山道整備・里山の自然保護作業
平成29年	8月20日	高知市 鷲尾山	42名	可燃物6.8kg　ビンカン類2.1kg　回収
		四万十市 高森山	7名	登山道整備・里山の自然保護作業
平成30年	8月12日	幡多郡黒潮町 八丁山	5名	登山道整備・里山の自然保護作業
	8月19日	高知市 鷲尾山	62名	可燃物3.0kg　カンビン類2.5kg　回収
令和元年	8月12日	四万十市 石見寺山	5名	登山道整備・里山の自然保護作業
	8月18日	高知市 鷲尾山	45名	可燃物2.0kg　カンビン類0.6kg　回収
令和２年	8月16日	高知市 鷲尾山	41名	可燃物1.9kg　カンビン類0.2kg　回収

平成29年度鷲尾山清掃活動で回収されたゴミの一部

令和４年度 第７回
ハイブリッド理事会議事録②

【▶前号続き】

議案第４号　組織基盤強化支援事業助成金交付決定について

赤尾事務局長が、配布済資料を基に説明した。助成金３,375万円に関して、事業（ユース世代のキャリアアップシステム構築、登山者、山岳スポーツ競技者、各種指導者のデジタルプラットフォーム構築）をプロジェクト チーム（複数委員会をまたぐ）を作って進めることについて、異議なく承認された。

反対ゼロ、　棄権ゼロ、賛成27名

議案第３号　ＪＭＳＣＡと加盟団体振興推進ＰＴ進捗（中間報告）について

青山理事が、画面で、アンケートのまとめの中間報告を行った。

ＳＣと山岳の分離や、ＪＭＳＣＡと岳連との関係の問題、規則についての問題点、選手登録の問題点等の説明がされた。

その後、当内容を岳連に情報提供することについて、異議なく承認された。

反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成27名

議案第５号　名義後援（雪崩事故防止研究会への後援）の承認について

町田常務理事が、配布資料を基に以下の補足説明をした。（後援依頼が何故このタイミングなのか、ASSH HPで気になった点、ＪＭＳＣＡから一度AvSARにお誘いしたのに断られている等）

その後、採決され、以下のような結果となった。

反対９名、棄権７名、賛成７名

賛成数が、23名中過半数の12名に満たなかったので当件は否決された。

否決となった旨の連絡は、事務局から、依頼元に伝達する。

反対の理由は、

1. AvSARの中心的立場のＪＭＳＣＡが、AvSARの参加を断ってきたＡＳＳＨを後援するのはコンプライアンス違反になる可能性がある。
2. 技術改定もおこなっているようだが、技術的に得るところはない。

議案第６号　自然保護指導員の腕章ロゴについて

前田理事、蛭田常務理事が、配布資料（ＣＩマニュアル）を基に説明した。

背景は緑、文字は白抜きを画面に表示。

２パターンを提案したが、皆様の意見をとりたい。赤○付きか、赤○なしかも決める必要がある。ＣＣ委員会としては、マニュアル通りでお願いしたい。赤○付きも作成したが、色の種類が多くなり単価があがってしまう。

そのため、すべて白抜きでよいか提案され、以下のように異議なく承認された。

反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成23名

議案第７号　テレワーク就業規則の新設と就業規則の変更について

赤尾事務局長が、配布資料を基に説明した。異議なく承認された。

反対ゼロ、棄権ゼロ、賛成23名

7．主な報告

報告第４号　山岳スキー海外合宿について

小竹理事が配布資料を基に説明した。

（質疑応答）

予算400万としている。補助金はＪＯＣにすでに申請しているが、詳細計画が未定だった。

選手がけがをするリスクがあるので、派遣選手数を　２－＞４名にして、宿泊費は個人負担とする方法の検討結果はどうなったか。

スポーツクライミングでは、レベルによって、個人負担の費用の範囲を変えている。

来年２月の派遣の予算については、上記を加味して、予算化していきたい。

8．その他

事務局改造は　８月27日に完了した。

ＨＰは９月中に、リニューアル版をリリース予定。

●後援については、規程を設けたほうが良いのではないか.

→作成したほうが良いので、検討していく。（注 規程があることが後日判明した。）

●消費税のインボイス制度導入に伴う準備について

→課税事業者の調査を開始し、どう対応していくかの対策を作成していく（事務局）。

（令和４年９月８日）　　記録　赤尾浩一

令和４年度 第８回
ハイブリッド理事会議事録

○**日　時**：令和４年10月13日（木）
14：05 ～ 17：30

○**場　所**：ＪＳＯＳビル３Ｆ会議室１と
Webのハイブリッド会議

○**出席者**：丸会長、亀山、小日向、古賀各副会長、小野寺専務理事、相良、蛭田、濱田、赤尾、町田各常務理事、前田、山本、青山、安井、水村（途中退席）、栗田，山口、六角、水島、野村、小竹、原、小高、丸山、中橋各理事中畠、古屋、佐久間各監事

○**欠席者**　村岡常務理事、笹生、望月各理事

1．開　会

2．丸会長挨拶

組織基盤強化支援事業で、蛭田常務理事が中心となって始めた総合デジタルプラットフォーム登録管理システムプロジェクトと、ＪＭＳＣＡビジネススクールのプロジェクトが本格化しつつある。これで、将来のＪＭＳＣＡ組織基盤を充実させることを目指したい。

一方で、直近の夏山遭難実績を省みると、668件、786人となり昨年と比較して約200名強増えており、ウイズコロナ下における安全登山のために、分析と課題抽出、対策が必要である。

3．会議成立状況報告

理事数28名中25名出席、監事数３名中３名出席（定款第33条、定足数＝15名（１／２　以上））

4．議長選出

丸会長が議長を務める。（定款第32条）

5．議事録署名人

会長及び監事（定款第34条）

ホストは小野寺専務理事が務める。

6．議題（注．審議順に記載）

議案第１号　議事録の承認について

令和４年度第６回理事会議事録の承認について（事前送付済）異議なく承認された。

議案第２号　2023年八王子ＷＣ開催の件について……１時間以内

丸会長が、配布済資料に基づき、財務委員長、ＳＣ部長と質疑応答した内容を説明した。

質問：ＢＷＣ2018の収支実績がゼロとなっているが、この数値は実績か。

総じて金額が低くなっている理由は何か。

追加費用はどうなるのか。

回答：ＢＷＣ2018では、収支がほぼ同額となっている。今回、西尾レントオール、東商からの協力で経費は減る見込み。

最大＋200万円ぐらい追加費用が発生する可能性はある。

意見：補助金入金のタイムラグが発生する。（４月開催で、５，６月に金額確定した場合に、入金は８，９月、支払いしてから、入金まで、半年ほどかかるので、そのための資金が必要ではないか。）

国内大会だけでなく、国際大会を行うことで、各スポンサーに追加協賛金を要請しているが、全体の見込では、最大でも＋７，000,000円くらい。

ＪＭＳＣＡ全体で、昨年のＳＣ大会の実績では41,000,000円赤字となっている。

積立金をあてにして大会を実行するのは難しいのではないかと考える。

チケット収入は、ＣＡＰの設定があり、八王子で行うデメリットがある。

今回の提案については、財政面の健全化、監事からの指摘を考慮すると、支出はこれ以上減らすのは難しく、収益を＋60,000,000円増やさないと当大会の開催は難しいのではないか。

意見：一般的に、ＮＦは世界大会を誘致するのに血眼になっており、ＪＭＳＣＡの境遇は恵まれている方。自治体を含む行政からの補助金に対してキャッシュを一時的に確保し、実際の支払いがされないと、補助金も出ない。今後、１月に来年の予算を作成するが、その際に、当大会の見積書を取り、提示した予算支出金額内に収まり、実請求金額も見積書金額以内に収めるよう、オペレーション（支払い）できれば、支出は予算以内に収められるはず。

意見：最大の支出金額削減はクライミング用壁設置費用と思うが、令和３年度の実績から、多少の上振れ、下振れを経験したので、それをリスクとして考えざるを得ない。現金がないと、実施して支払いができない。そういったリスクを、どこまでとる

のかということではないか。

意見：キャッシュフローと、実際の収支は別の議論ではないか。実施行ってみて、その後の大会で、どの程度の資金の確保ができるのか、チケットの売り上げ等は、確かにあてにできないかもしれない。

意見:国内大会と、日本で行う国際大会では、影響を含めて、優先度が違う。国内大会を減らしても、日本で国際大会を開催することの意義がある。

意見：国際大会は八王子でないとだめなのか。八王子で行うと３,000,000円の制限があり、デメリットがある。八王子以外の場所で同様の世界大会が可能ならば、旅費やテント設置費用、通信環境の整備で費用増があるかもしれないが検討の余地があるのではないか。

当件について、早く結論を出した方が良いという声もあったが、限られた時間の下で、ＳＣ部長がいない中での決議をするのは難しいという意見が出され、本日は決議せず、次回に持ち越すという提案が出され、以下のように承認された。

反対０名、棄権０名、賛成24名

上記に付随して、予想収入でグレーな部分は、収入とせず、その旨注意書きとして入れておいた方が、正しい判断につながるのではないかという点と、次回11月度の理事会で決議するようにしたいという意見が出された。

議案第３号　令和４年度運転資金の確保について

小野寺専務理事から、配布資料を基に現状の運転資金の状況を説明した。

令和３年度に比べて、ＪＯＣからの強化事業助成金が増えた分、強化資金の支出が多くなっている。支出金額は、助成金内だが、キャッシュ自体が足りなくなってきているので、一時的に特定資産（国際大会資金）30,000,000円からの資金借入及び銀行からの借入40,000,000円で対応したいという内容の提案をした。

質問：特定用途（国際大会）に限定して、使用するということはできないか。また、来年３月末で、特定資産　30,000,000円に返せるのかどうか。銀行からこの30,000,000円を担保にして借入れるということはできないか。30,000,000円の国際大会用の資金がなくなってしまうのか。

回答：特定用途だけに限定するのではなく、一般資金として流用する予定である。

３月末で30,000,000円をそのまま返せるかどうかは不明。30,000,000円（特定資産を担保として銀行から借入）＋40,000,000円（もともと予定している銀行からの借入）の合計70,000,000円を借りるよりは、まずは、利子を少しでも節約して、40,000,0000円の借入れとしたい。30,000,000円は、ＪＯＣ助成金150,000,000円が、入金したら国際大会用特定資産に返却する。

今回の提案に対して採決され、以下のように、承認された。

反対０名、棄権１名（水島理事）、賛成23名

なお、補足として、予測値に基づいた計算なので、今後の実収入、実支出によって、資金シュートが発生しうること、その場合には、都度提案することが補足された。

議案第４号　令和２年度ＪＳＣ処理における規則違反反省改善文について
助成金申請／報告指摘事項について

小野寺専務理事が、配布資料を基にＪＳＣから以下の点が指摘されていることの説明をした。

Ａ．スポーツ振興基金助成事業

＊契約手続き：１,000,000円以上の見積もりについて相見積もりがされていないこと。契約相手方から「完了報告書もしくは納品書」を徴取しておらず、また、「検査調書」を作成していないことから、適正な契約手続きを確認できないこと。

＊その他：平成26年度事業を対象とした会計処理等に関する実態調査においても、「契約手続」について当センターから指摘し、貴団体から改善方策の回答があったにもかかわらず、改善が見られなかったこと。

Ｂ．競技力向上事業

＊契約手続き；「物品供給、役務請負等の契約に当たっては、仕様書を作成し、なるべく二人以上の者から見積書を徴さなければならない。」と規定されているにもかかわらず、当該手続きを怠っていること。

「完了報告書もしくは納品書」を徴取していないことから、適正な契約手続きを確認できないこと。

＊ロゴマークの表示が行われていないこと

＊助成事業の公開の有無：「助成事業者は、助成事業の実施状況及び実施結果並びに助成金の使途に関する情報を公開するものとする。」と規定されているにもかかわらず、当該手続きを怠っていること。

上記である。

意見：ルールや規律は、“予算執行管理に関する運用規律”として決まっている。

第６条に、適正業者の選択、見積価格の検証、業務委託契約の締結、第７条で、予算規模を上回る事業経費への対応等、丁寧に、細かく記述しているが、守れなければ、組織としての運用能力がないということになる。皆様に、守っていただくしかない。

意見：規律どおりに運用されていないのは、現場でできない理由や、事情があるのではないか。当事者意識をもって対応することが必要。また、１年後に実際行っているかどうかを見るよりも、その前にうまく運用されているかをチェックした方がよい。ＳＣ部で、予算と実績の比較等を当事者意識を強くもって行ない始めたのは今年になってから。今までは、予算管理の当事者向けに実績情報の提供ができていない、必要な人的資源が行きわたっていないのではないか。

意見：過去からも同じ問題点が何度も指摘されており執行理事と予算管理する理事を分けて予算管理をすることがあった。

質問：2019年の大規模赤字を踏まえ、“予算執行管理に関する運用規律”が施行され、翌年からＳＣ担当理事の方が、大会ごとに配置され、予算執行についてチェックを行っており、うまく運営されていると思ったが、その後どのような状況か。

回答：2019年の翌年には、担当理事が、見積書と請求書、実支出が予算オーバーしていないか等のチェックを行っていた。その後、組織の建て付けが変わり、今は、大会ごとに誰がそのチェックをするのか明確になっておらず、できていない部分があ

寄贈図書

(公社) 日本スカッシュ協会	「SQUASH」Vol.91	会報
(公財) 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 534、No. 535、No. 536	会報
(株) 日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2375号～第2383号	新聞
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第496号	会報
富士山測候所を活用する会	「富士山測候所のはなし」	書籍
大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.142号	会報
(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」11月号 No. 905、12月号No. 906、1月号No. 907	雑誌
中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊 289	会報
(公社) 日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.392、No.393	会報
(株) 山と渓谷社	「山と渓谷」11月号 No 905、12月号 No1058、1月号 No1059	雑誌
(一社) 埼玉県山岳・SC協会	「SMSCA NEWS」No.75	会報
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No. 573、No. 574	会報
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第497号	会報
明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.196、198、199、200	会報
東京野歩野路会	「山嶺」Vol. 100 No. 1112、Vol.100 No.1113	会報
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第445号、第446号	会報
やまびこ山想会	「やまびこ」第202号	会報
(一財) 日本防火・防災協会	「地域防災」No.46	会報
おいらく山岳会	「山行手帖」No.755	会報
(公社) 日本山岳会	「山」2022年10月号 No. 929、11月号 No. 930、12月号 No. 931	会報
特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.91	情報誌
月曜山歩会	「クレージー アルペン」創立60周年記念号34	記念誌
福岡山の會	「せふり」No.413	会報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第665号、第666号	会報
(公財) 日本スポーツ協会	「Sport Japan 」vol.64	会報
COREAN ALPINE CLUB	「산 (山) 」2022年10月号 Vol.275号	会報
北海道山岳連盟	「北海道山岳連盟創立70周年記念誌 北の岳雄とともに 2012-2022」	記念誌
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第363号	会報
(株) 天夢人	「山の今昔物語」	寄贈本
山と渓谷社	「ROCK & SNOW」No.98	雑誌
(公財) 埼玉県スポーツ協会	「スポーツ埼玉」Vol.296	会報
一等三角點研究會	「聳嶺」新世紀第15号	会報
(公社) 日本山岳会越後支部	「越後山岳」第14号	会報
三峰山岳会	「岩つばめ」No.369	会報
(公財) 全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」2022 Vol.44	会報
(一財) 日本防火・防災協会	「地域防災」No.47	会報
長野県山岳協会	「やまなみ」No.247	会報
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第498号	会報

る。今後、ＳＣ部として体制を立て直し、八王子ＷＣ大会も含め、チェックができるようにしていきたい。

意見：職員が予算オーバーになりそうならばアラートを委員会に出すような仕組となっているＮＦもある。サポートできる人を事務局に置き、必要に応じて委員会や岳連等をサポートしていくというのはどうか。

以上の意見交換後、回答案に対して採決され、以下の結果となり承認された。

反対０名、棄権１名（濱田常務理事）、賛成23名

議案第５号　組織基盤強化支援事業助成金交付決定について

＊蛭田常務理事が、配布資料を基に総合デジタルプラットフォームの概要を説明した。

今後の予定は、

10/21：入札公告、10/28：提案業者申込締切、資料配布、11月中下旬:業者選定（４－５社くらいの候補から）

外部仕様の確認や、業者からの提案について評価等を行うためにプロジェクトメンバー候補者に声をかける予定。

＊丸会長が、ＪＭＳＣＡキャリアアップアカデミーの開校に向けての取り組み状況を説明した。

－スポーツ指導者、Ａ選手登録

－以下の内容を教える予定

履歴者、職務記述書の書き方、 英語プレゼンテーション、パワーポイントによ る資料作成、マイクロソフトＭＯＳ資格取得、英語でのコミュニケーション能力向上、英検受験のための方法等

－年内試験的に開始予定

議案第６号　ＪＭＳＣＡ加盟団体振興推進ＰＴ進捗（中間報告）について

青山理事が、共有画面を通じて、分析結果資料の内容説明をした。

ＪＭＳＣＡに求めることとして、登山部門への支援、再評価、財政、人的支援があがった。

議案第７号　Ｒ４年度上期事業総括案について

小野寺専務理事から、11月の理事会で承認をめざすので、理事会参加の方に、配布資料の内容を読んでいいただき、変更が必要ならば、事務局あて連絡してほしい旨の説明があった。

議案第８号　日本スポーツ賞推薦について

例年、ＳＣ部に推薦の依頼をしているが、11/14までに推薦書と写真を送付することが必要となっている。今年も同方式で行うことについて、異議なく承認された。

事務局から、安井理事宛、ＣＣ関係者あてにメールして推薦依頼することになった。

議案第９号　旅費等規程について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。主な変更点は以下のとおり。

＊現在、出発地の県庁所在地駅から行先の県庁所在地駅が精算対象となっているが、現状にそぐわなくなってきているので、出発最寄り駅から、行先最寄り駅に変更したい。

＊急行料金、特別急行料金の至急について、片道100km以上だったところ、50km以上と明確に追記した。

＊海外旅行時、ビジネスクラスで行く人もいるが、エコノミーを標準として、差額は個人負担とする旨の文面を追記した。

今回の旅費等規程の変更内容と、施行は令和４年10月14日（金）からとし、10月13日（木）以前の分については、さかのぼらず精算しないことについて、以下のように承認された。

反対０名、棄権０名、賛成24名

尚、車賃で、自動車（含むレンタカー、タクシー）を使用した場合の清算方法のの明確なルールがないので、作成、挿入し、次回以降の理事会で提案することになった。

議案第10号　臨時理事会の開催についての提案

小野寺専務理事が、加盟団体振興推進ＰＴにかかわる議論を深めることと新任理事監事向けの研修を行うという目的で、対面で泊まり込み形式で、臨時理事会を２日かけて行いたいという提案（可能ならば委員長、副委員長を含め）が、常務理事会であった旨説明した。

日程案は、令和５年１月８日（日），９日（月）で、出席は強制ではない。ブロック別研修会があるので、細かい調整は、町田常務理事、蛭田常務理事が、後日プロジェクトチームを作り具体的な提案をするが、上記方向で進めることで、異議なく承認された。

７．報　告

報告第１号　９月度の月次報告について

11月に上半期の決算をするので、その時に一緒に報告することになった。

報告第２号　総会における監事の指摘事項について

次回にまわすこととなった。

報告第３号　総会での正会員からの指摘事項について

配布資料に記載の通りである。

報告第４号　「国際山岳年プラス20シンポジウム」（山の日協議会）後援について

報告第15号　神奈川県民登山名義後援について

上記２件は、配布資料に記載の通りで、常務理事会で承認された。

報告第５号　ＪＯＣ認定競技別強化センターの認定について

日本代表選手の使用頻度が少なかったため、既存の３施設（盛岡、鳥取、西条）とも更新ならず。ＪＭＳＣＡ認定選手強化センターの対象とした方がよいので、次回理事会で提案することになった。

報告第６号　Ｒ４年度キャッシュフローについて

議案第３号で説明済なので追加報告はなし。

報告第７号　ガバナンスコードの適合性審査について

ＪＯＣと、適合性と、その自己説明についてやり取りをしている。10月末までに、現時点の適合性の自己説明のまとめをＨＰに掲載する予定。

報告第８号　国体報告について

まだ報告ができていないので、完成次第報告。

報告第９号　アジア競技大会打合せ報告について

配布資料に記載の通りである。

報告第10号　山梨県岳連・秋山泉氏、参与／賛助会員辞退について

報告第11号　ＳＣコーチ認定について

配布資料の内容が常務理事会で承認された。

報告第12号　Ｈ29年度旅費支払いについて

配布資料の記載の通り。具体的な説明が必要ならば、個別に補足説明する予定。

報告第13号　登山部会議事録

配布資料の記載の通り。

報告第14号　海外登山懇談会について

11月16日にヒマラヤの「ＳＡＷＡ」について佐藤裕介さんが発表予定。

報告第16号　第16回山岳スキー選手権黒部・宇奈月大会ついて

小竹理事が配布資料を基に説明した。１/27（金）～29（日）に実施。2022－2023の全大会日程は確定した。

報告第17号　ＳＤＧｓ推進委員会報告について

上半期の点検を委員長に依頼済、10月末までにまとめる予定。

報告第18号　積雪期山岳レスキュー講習会について

配布資料の通り１月27（金），28（土），29（日）で実施予定。

報告第20号　業務執行理事の職務執行報告について

業務執行理事が配布資料を基に報告した。

８．その他

－共済会の報告の現状（人数）、予算等については、次回11月理事会で提示予定。

－審判員／ルートセッタースポーツクライミング部資格更新研修会、東京と同時に長野で実施予定。

－消費税のインボイス制度導入に伴う準備を行うこと。具体的には、事務処理体制、課税事業者、非課税事業者の調査を開始し、どう対応していくかの対策を講ずること。

－夏山リーダー査察について

延期ではなくて、11/25（金），26（土），27（日）　に実行予定に変更する。

（令和４年10月13日）　　記録　赤尾浩一

8月号より開始！ かすみちゃんのハイキング日記」

表紙のことば

第２回目の冬季エベレスト南西壁登攀では、破竹の快進撃でルートを延ばし、早くも12月13日にはロック・バンドの上にファイナル・キャンプのＣ４（8,350m）を建設した。

翌14日からこの空中の止まり木のようなＣ４を拠点にイエローバンドへのルート工作にかかった。

スノー・バンドをトラバースしてから垂壁を攀ってイエローバンドの下に出る。足元からは高差2,000mの空間を隔てウエスタン・クムのクレバスが眺められ、凄い高度感であった。背後のテントがＣ４。

（写真撮影　尾形好雄）

編集後記

2023年1月8,9日の1泊2日でＪＭＳＣＡの理事、委員長、副委員長が成田に集合して研修会合宿を行いました。

コロナ渦によりビデオ会議が主流になり情報は早く伝わりますが、情報以上の主旨というか心が通じ合わない感じがあり、なんとなく溝のようなものがあるような感じがしましたが、集合して、目と目を合わせて話をして一緒に夕食を食べ適度のアルコールも入ると心の溝がなくなったような気がします。

これが信じあえるということなんでしょうね。ＪＭＳＣＡの事業はみんなボランティアで行っているので心が通じて楽しいことが大事ですね。　（蛭田伸一）

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会
〒141-0031
品川区西五反田６-３-23-205
☎03-3492-0355　FAX 03-6451-3767

登山月報　第 646 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　令和５年１月15日
発行者　東京都新宿区霞ヶ丘町４番２号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03－5843－1631
ＦＡＸ　03－5843－1635

山岳雑誌 岳人（がくじん）
山と人、時代をつなぐ「岳人」

2月号 発売中
【特集】地図を読む楽しみ
★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格990円（税込）

年間購読がおすすめです
購読割引　送料無料　限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。
通常価格12冊 ~~10,800円~~（税抜） 11,880円（税込）
→ 年間購読なら12冊 1冊分おトク！ 9,900円（税抜） 10,890円（税込）

年間購読特典
岳人 U.L. ショルダーバッグ
3色のうち1色をお届け。
※カラーはお選びいただけません。
軽量で丈夫な生地を使用。登山中のサブバッグに！
限定デザイン
岳人カード
全国2,000カ所以上でご優待！
全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから！
https://www.gakujin.jp/
全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ モンベルポスト
フリーコール 0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（Sustainable Development Goals）とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境	
関連する主なSDGs	主な取組
12 13 14 15	・再生可能エネルギーの普及支援 ・自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会	
関連する主なSDGs	主な取組
1 2 3 4 5 6	・健康づくりの支援 ・先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組
7 8 9 10 11	・次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） ・災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

JMSCA

登山者のマナー
山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- □ 傷害死亡・後遺障害
- □ 遭難捜索費用
- □ 救援者費用
- □ 傷害入院
- □ 傷害通院
- □ 傷害手術
- □ 日常生活賠償

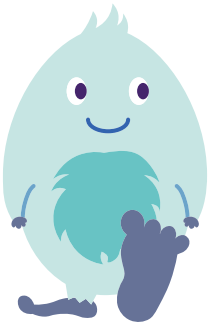
日山協 山岳共済会 〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）

携帯からも資料請求ができます。
https://sangakukyousai.jp



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます